

広報

ぐんま育英

発行
学校法人 群馬育英学園
広報委員会

ご挨拶



群馬育英学園

理事長 中村義寛

2025年、令和7年の新年を迎え謹んでお慶び申し上げます。

今年は、年が明け、成人の日の1月13日に決勝戦が行われた第103回全国高校サッカー選手権大会において前橋育英高等学校男子サッカー部が2度目の全国制覇という群馬育英学園にとって素晴らしい年の初めとなりました。

初戦ではサッカー高校生年代最高峰、高円宮プレミアリーグ・

ウエストに所属の米子北高校に2-0で快勝、2回戦では愛工大名電高校に後半、終盤にPKを与え2-2に追いつかれた試合はPK戦。相手5人目選手のゴールが決まれば敗戦の試合、ボールは枠外でサドンレスへ、辛くも6-5で勝利。3回戦の帝京大可児高校との試合は序盤の2ゴールでリードも、不安定な守備もあり前半のうちに2点を返され、相手GKの退場で有利に立つも終盤までゴールを奪えず後半36分に決勝点を決め3-2の辛勝でした。続く準々決勝の堀越高校戦は、前線も含めた粘り強い守備で1-0で勝利し、初優勝して以来7年ぶりのベスト4、新国立競技場になってからは初めての出場となりました。準決勝の相手の東福

岡高校は福岡県予選から7試合無失点と強固な守備を誇り、前半は中々チャンスをつくれずも後半に2選手の投入が功を奏し、後半早々に同点、10分間に3得点しました。決勝は高校選手権過去最高の58,347人の観客の歓声を浴びる中、前半12分に先制点を奪われるも、徐々に育英もペーシングをつかみ31分に同点に追い付き、後半はお互いにチャンスを生かせぬまま、延長戦でも決着がつかず、PK戦へ。決勝戦では初の10人目まで進んだPK戦は東福岡の選手のシュートを育英ゴールキーパーが阻止。最後に育英キッカーがゴールを決めて激闘は終わりました。

歴史に残る試合、PK戦を制した選手、スタッフには素晴らしい試合を見せてもらえたことに感謝し、スタンドで応援してくれた選手や生徒、保護者、関係者の皆様やTV等で応援していただいた皆様には心より感謝申し上げます。

前橋育英高校女子サッカー部は第33回全日本高等学校女子サッカー選手権大会で1回戦を勝ち抜きましたが、2回戦では帝京長岡高校に0-1で惜敗しました。また、前橋育英高校男子バスケットボール部は第77回全国高等学校バスケットボール選手権

大会(ウインターカップ)の1、2回戦を勝ち抜き3回戦ではこの大会を優勝した福岡大附大濠高校に敗退しましたが、女子サッカー、男子バスケットボールともに力を出し切り頑張ってくれました。

今回の前橋育英高校男子サッカー部の全国選手権大会出場に係る支援・募金に際しましては、学園協力会・協力企業・高校後援会・保護者会・同窓会・退職者の会・教職員・関係者等々、多くの皆様にご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

昨年の夏、育英大学助手の櫻井つぐみ選手、元木咲良選手のパリオリンピック出場に際しまして、学園協力会や関係各位、多くの皆様のご支援・声援により2選手が金メダルを獲得することができました。本当に有難うございました。

育英大学、育英短期大学、前橋育英高校ともに一層の進化を進め、今後ますます厳しくなる少子化にあっても地域社会から高く評価される総合学園を目指して邁進してゆく所存です。今後とも関係各位の更なるご理解とご協力をお願いいたしますとともに、この1年が皆様にとってすばらしい年になりますようにお祈り申し上げます。といたします。

役員・評議員

理事長 学園長 中村 義寛

理事 大学 短大 学長 石井 學

理事 大学 短大 学長 二波 諭司

理事 大学 短大 学長 佐伯 詔一

理事 大学 短大 学長 岩川 正典

理事 大学 短大 学長 山田 耕介

理事 大学 短大 学長 武田 雅彦

理事 大学 短大 学長 福田 英人

理事 大学 短大 学長 前田 宏

理事 大学 短大 学長 奈良 知彦

理事 大学 短大 学長 富岡 政明

理事 大学 短大 学長 反町 敦

理事 大学 短大 学長 柳川 美磨

理事 大学 短大 学長 中西 信之

理事 大学 短大 学長 岡田 神哉

理事 大学 短大 学長 平澤 精人

理事 大学 短大 学長 山本 健太

理事 大学 短大 学長 新井 信雄

理事 大学 短大 学長 根岸美智代

理事 大学 短大 学長 関根 映一

理事 大学 短大 学長 北條 哲成

理事 大学 短大 学長 遠山 浩二

理事 大学 短大 学長 石井 晃英

理事 大学 短大 学長 大塚智枝子

理事 大学 短大 学長 高月有記恵

理事 大学 短大 学長 亦野 高裕

理事 大学 短大 学長 北原 崇夫

理事 大学 短大 学長 山田 忠彦

理事 大学 短大 学長 高月 広喜

理事 大学 短大 学長 川端 誠

理事 大学 短大 学長 吉井 健人

理事 大学 短大 学長 滝沢 和彦

理事 大学 短大 学長 内田 基美

理事 大学 短大 学長 星野真由美

理事 大学 短大 学長 大佐古紀雄

理事 大学 短大 学長 三浦 哲也

理事 大学 短大 学長 戸澤 勲

理事 大学 短大 学長 中澤 朋弘

理事 大学 短大 学長 桂 健太郎

理事 大学 短大 学長 茂木 郁夫

理事 大学 短大 学長 高津 秀一

理事 大学 短大 学長 加藤 真一

理事 大学 短大 学長 上原 敏広

理事 大学 短大 学長 中井 俊二

高等学校
教頭
事務次長

キャリアサポート課長

学生支援課長補佐

入試広報課長

教務課長

図書館長兼教育研究所長 教授

管理課長

保育学科長 教授(短大)

学生支援部長 教授(大学)

教務部長

※は評議員兼任

令和5年度 決算報告

学校法人 群馬育英学園

学園の令和5年度決算は、本年度5月24日(金)に開催された理事会において承認可決され、続いて開催された評議員会に報告されました。令和5年度決算は下記のとおりです。

事業活動収支計算書

令和5年4月1日より
令和6年3月31日まで

教育活動収支 事業活動収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
学生生徒等納付金	1,693,112,000	1,674,624,320	18,487,680
手数料	52,572,000	52,380,935	191,065
寄付金	72,778,000	72,453,406	324,594
経常費等補助金	716,109,000	740,464,012	▲ 24,355,012
付随事業収入	89,200,000	92,542,000	▲ 3,342,000
雑収入	93,153,000	125,946,976	▲ 32,793,976
教育活動収入計	2,716,924,000	2,758,411,649	▲ 41,487,649

教育活動収支 事業活動支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
人件費	1,646,358,000	1,678,049,404	▲ 31,691,404
教育研究経費	794,943,000	854,226,416	▲ 59,283,416
管理経費	246,039,000	253,834,178	▲ 7,795,178
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	2,687,340,000	2,786,109,998	▲ 98,769,998
教育活動収支差額	29,584,000	▲ 27,698,349	57,282,349

教育活動外収支 事業活動収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
受取利息・配当金	6,000	135,342	▲ 129,342
教育活動外収入計	6,000	135,342	▲ 129,342

教育活動外収支 事業活動支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
借入金等利息	2,498,000	2,475,242	22,758
教育活動外支出計	2,498,000	2,475,242	22,758
教育活動外収支差額	▲ 2,492,000	▲ 2,339,900	▲ 152,100
経常収支差額	27,092,000	▲ 30,038,249	57,130,249

特別収支 事業活動収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
資産売却収入	0	0	0
その他の特別収入	13,500,000	28,300,417	▲ 14,800,417
特別収入計	13,500,000	28,300,417	▲ 14,800,417

特別収支 事業活動支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
資産処分差額	0	5,225,679	▲ 5,225,679
その他の特別支出	0	1,388,051	▲ 1,388,051
特別支出計	0	6,613,730	▲ 6,613,730
特別収支差額	13,500,000	21,686,687	▲ 8,186,687

科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
[予備費]	10,000,000		18,000,000
基本金組入前当年度収支差額	30,592,000	▲ 8,351,562	38,943,562
基本金組入額合計	▲ 195,231,000	▲ 136,547,204	▲ 58,683,796
当年度収支差額	▲ 164,639,000	▲ 144,898,766	▲ 19,740,234
前年度繰越収支差額	▲ 4,604,709,124	▲ 4,604,709,124	0
翌年度繰越収支差額	▲ 4,769,348,124	▲ 4,749,607,890	▲ 19,740,234

(参考)

事業活動収入計	2,730,430,000	2,786,847,408	▲ 56,417,408
事業活動支出計	2,699,838,000	2,795,198,970	▲ 95,360,970

資金収支計算書

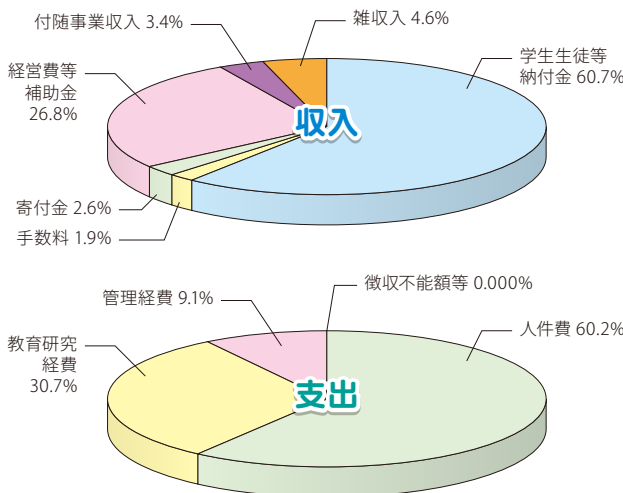
令和5年4月1日より
令和6年3月31日まで

(単位:円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
学生生徒等納付金収入	1,693,112,000	1,674,624,320	18,487,680
手数料収入	52,572,000	52,380,935	191,065
寄付金収入	86,278,000	88,402,406	▲ 2,124,406
補助金収入	716,109,000	740,464,012	▲ 24,355,012
資産売却収入	0	330,000	▲ 330,000
付随事業・収益事業収入	89,200,000	92,542,000	▲ 3,342,000
受取利息・配当金収入	6,000	135,342	▲ 129,342
雑収入	93,153,000	126,161,976	▲ 33,008,976
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	135,300,000	136,644,900	▲ 1,344,900
その他の収入	1,281,655,000	1,455,708,952	▲ 174,053,952
資金収入調整勘定	▲ 400,466,000	▲ 167,399,749	▲ 233,066,251
前年度繰越支払資金	1,297,345,672	1,297,345,672	0
収入の部合計	5,044,264,672	5,497,340,766	▲ 453,076,094

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
人件費支出	1,646,358,000	1,647,256,905	▲ 898,905
教育研究経費支出	593,485,000	598,796,878	▲ 5,311,878
管理経費支出	216,516,000	225,193,789	▲ 8,677,789
借入金等利息支出	2,498,000	2,475,242	22,758
借入金等返済支出	49,386,000	49,386,000	0
施設関係支出	74,072,000	74,237,900	▲ 165,900
設備関係支出	121,159,000	73,776,164	47,382,836
資産運用支出	0	38,968,279	▲ 38,968,279
その他の支出	1,218,336,000	1,463,086,452	▲ 244,750,452
予備費	10,000,000		10,000,000
資金支出調整勘定	▲ 32,291,000	▲ 109,295,233	77,004,233
翌年度繰越支払資金	1,144,745,672	1,433,458,390	▲ 288,712,718
支出の部合計	5,044,264,672	5,497,340,766	▲ 453,076,094

令和5年度 事業活動収支構成比率



貸借対照表

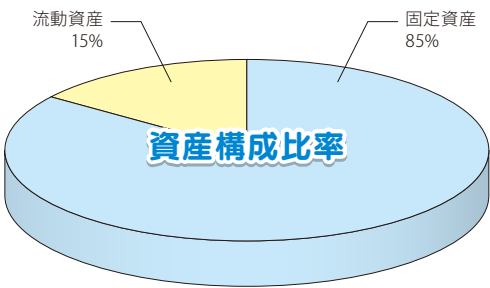
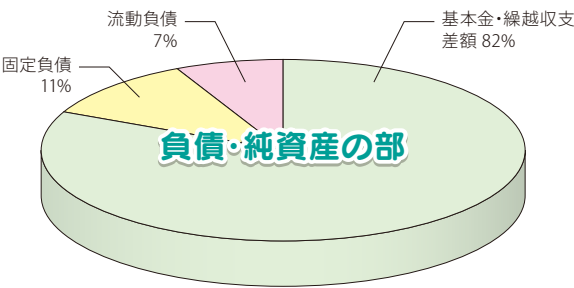
令和6年3月31日現在

(単位:円)

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減(▲)
固定負債	1,119,484,669	1,108,342,124	11,142,545
長期借入金	568,143,000	606,929,000	▲ 38,786,000
退職給与引当金	116,720,860	85,928,361	30,792,499
長期未払金	434,620,809	415,484,763	19,136,046
流動負債	690,232,190	676,786,326	13,445,864
短期借入金	38,786,000	49,386,000	▲ 10,600,000
未払金	65,251,377	54,608,342	10,643,035
前受金	136,644,900	131,062,000	5,582,900
預り金	449,549,913	441,729,984	7,819,929
負債の部合計	1,809,716,859	1,785,128,450	24,588,409
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減(▲)
基本金	12,955,618,564	12,819,071,360	136,547,204
第1号基本金	12,769,618,564	12,633,071,360	136,547,204
第4号基本金	186,000,000	186,000,000	0
繰越収支差額	▲ 4,749,607,890	▲ 4,604,709,124	▲ 144,898,766
翌年度繰越収支差額	▲ 4,749,607,890	▲ 4,604,709,124	▲ 144,898,766
純資産の部合計	8,206,010,674	8,214,362,236	▲ 8,351,562
負債及び純資産の部合計	10,015,727,533	9,999,490,686	16,236,847

収入の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減(▲)
固定資産	8,527,401,167	8,616,978,184	▲ 89,577,017
有形固定資産	8,344,980,250	8,475,843,424	▲ 130,863,174
土地	3,165,027,015	3,165,027,015	0
建物	4,224,348,216	4,335,304,692	▲ 110,956,476
構築物	324,396,109	349,177,344	▲ 24,781,235
教育研究用機器備品	272,850,448	280,820,069	▲ 7,969,621
管理用機器備品	34,869,685	34,019,998	849,687
図書	255,335,496	253,802,583	1,532,913
車輛	68,153,281	57,691,723	10,461,558
特定資産	116,971,171	86,178,672	30,792,499
退職給与引当特定預金	116,720,860	85,928,361	30,792,499
クラブ活動特定預金	250,311	250,311	0
その他の固定資産	65,449,746	54,956,088	10,493,658
権利金	3,000,000	0	3,000,000
電話加入権	1,963,507	1,963,507	0
保険積立金	38,375,889	31,083,981	7,291,908
出資金	50,000	50,000	0
敷金・保証金	402,000	375,000	27,000
貸付金	21,200,000	21,200,000	0
その他預託金	458,350	283,600	174,750
流動資産	1,488,326,366	1,382,512,502	105,813,864
現金預金	1,433,458,390	1,297,345,672	136,112,718
未収入金	36,810,871	70,656,375	▲ 33,845,504
有価証券	0	0	0
前払金	14,614,719	9,963,489	4,651,230
仮払金	3,442,386	4,546,966	▲ 1,104,580
資産の部合計	10,015,727,533	9,999,490,686	16,236,847

令和5年度 貸借対照表



育英大学 育英短期大学 だより

学生数

大学 教育学部 516人

短期大学

保育学科 307人

現代コミュニケーション学科 112人

新春を迎えて



育英大学・育英短期大学

学 長 石 井 學

育英大学・育英短期大学一同が新たな決意で新春を迎えました。

昨年度は本学卒業生でレスリング部出身の櫻井つぐみ選手、元木咲良選手がパリオリンピックで金メダル、大学生の石井亜海選手、清岡もえ選手が、非オリンピック階級世界選手権大会で優勝と輝かしい活躍で、育英大学の名を国内外に示しました。創部7年目にしての快挙は選手の皆さんの並々ならぬ努力と併せて、監督、コーチ陣、関係者一同が一体となった努力の成果だと思います。努力は新しい物を生み出すことを全学に示してくれました。

しかし、一方で大学を取り巻く全体像は大変厳しく、大学進学者数の将来推計等の最新データによると、大学入学者数は2030年までは60万人台で推移していま

すが、2035年に60万人を割り込むこと、2040年までに急激に減少して46万人台になる見通しとしています。大学全入時代が定着した今、高校生のニーズや世界の変化に対応し、選ばれる大学、具体的に入学希望者が大学に何を求めているかを理解し、それにもとづいた大学運営が重要です。そのためにはマーケティングの視点からの改革が必要だと思います。

育英大学は2024年スポーツ教育専攻で入学定員50名を2倍の100名に増員しましたが、おかげ様で定員を充足することが出来ました。今後さらなる増員を予定しています。スポーツ担当教員は勿論のこと、地域スポーツ指導者の養成等にも努力して、スポーツの振興に貢献出来ればと思っています。

児童教育専攻は、学校教育コー

スと幼児教育コースに分かれています。両コース共に学生諸君の努力次第で同一免許が取得可能な制度となっています。現実感覚を身につけた即戦力となる教員の養成を目的として教育を進めています。

短期大学は少子化の進行により、とりわけ厳しい状況におかれていて、両学科共に特色を出す事が求められています。

保育学科は子ども文化、子ども表現、子ども運動、子どもユニバーサル4つのプログラムを設け、より専門性を高める努力をしています。県内保育施設に勤務する保育士の50%以上が、育短の出身者で占めていると言われており、即戦力としての高い評価を受けています。今後も地域の保育士養成を担っている事を自覚し、教員全員更なる努力をしたいと思っています。

現代コミュニケーション学科はコースの枠を越えて、夢や興味、感心にあつた科目選択方式で全国的にも数少ない特色を持った短大です。入学後に自分の進路を決めることが出来ます。

今後もしも特色を出して選ばれる育英大学、育英短期大学を目ざして努力い

短期大学学科だより

保育学科長
内田 基 美

— ありがとうでつながる人になる —

新年あけましておめでとうございます。日頃より皆様からのご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。今年度、保育学科では「ありがとうでつながる人になる」というモットーを掲げ、学生が人との繋がりの中で、「ありがとう」という言葉を言える人、また言われる人であってほしいという思いを、常に念頭に置いて参りました。それは学生が育英短期大学の2年間の学びの中で、自

現代コミュニケーション学科長
泉水 清 志

— 人や社会のためのコミュニケーション —

新年あけましておめでとうございます。日頃より皆様方のご支援に対し、大変感謝いたします。一年生、二年生とも自分の興味関心がある学びを通して、卒業後のキャリアを検討しながら、コミュニケーションの習得・向上を目指して充実した学生生活を過ごしています。

コミュニケーション能力は、相手を言い負

らの個性や特質を伸ばし、気づきを深め、自身を生かし、発言し、行動し、社会にでても育ち続ける力を、様々な角度から導くことと考えております。

本学では開学以来9千人を超える卒業生を送り出しました。保育業界や保育者のマイナスイメージのニュースが報道されることもありますが、その中で私たちは子どもたちの豊かな未来を後押ししようとする保育現場で、昼夜子どもたちに寄り添い、愛情を注ぐ卒業生の姿を多く知っています。保育者不足と言われている現在、本学の養成校としての役割は、地域からも保育現場からもさらに期待されております。今あらためて、保育学科教員自らが学内外で「つながる人」となり、これからの保育者養成に尽力して参りたいと思います。

今後とも皆様方のご支援とご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

しかし、自分の目的を達成するために使う自己主張の高さであると勘違いされがちです。しかし、今後の社会ではコミュニケーションを通して他者の気持ちを理解し、相手の立場を尊重して、人や社会のために役立てる人間が必要とされ、組織の発展にも欠かすことができません。現代コミュニケーション学科が地域社会で必要とされ続けるために、これからも利己的でなく利他的なコミュニケーションを実践できる人材を養成していきたいと考えています。前橋育英高校との連携・接続をさらに充実させ、育英大学と協力しながら群馬育英学園の発展のために学科教員全員が尽力していきたいと思っています。今後とも皆様方の変わらぬご支援、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

教育学部だより



副学長・教育学部長

柳川美磨

—スポーツ教育専攻の
定員増と現状の報告—

新年あけましておめでとうございませう。育英大学はおかげさまで開学7年目を迎えることができました。本年度8月に開催されたパリオリンピックでは、本学助手である櫻井つぐみと元木咲良が見事、金メダルを獲得する快挙を成し遂げました。私自身も女子チームの監督として現地で試合準備に携わりましたが、これほど緊張と感動を味わった大会は他にありませんでした。この成果は、選手たちの努力と、皆さまからのご支援の賜物であると心より感謝申し上げます。

本学では学生募集も順調に推移しており、来年度にはさらなる教育の充実を目指して、スポーツ教育専攻の定員を1000名から1300名に増加し、中学校・高等学校の英語免許を取得できる英語教育専攻(定員20名)の新設を計画しております。ス

ポーツ教育専攻では、地域に根差した運動部活動の移行や小学校中学年からの教科担任制拡大を背景に、体育専科の指導ができる教員や地域スポーツ指導者の需要が高まっており、これに応えるため実践的で専門性の高い教育を提供してまいります。

一方、英語教育専攻では、小学校中学年からの教科担任制の推進や、中学校・高等学校における専門性の高い英語教員の育成を重視しています。また、異文化理解やコミュニケーション能力を重視した教育プログラムを通じ、国際社会に対応した人材を育成することを目指しており、教員養成とグローバルな視野を兼ね備えたカリキュラムを構築してまいります。

こうした成果は本学の取り組みが広く評価されている証であり、開学から7年という短期間にもかかわらず、「教育の育英大学」としての地位を確立しつつあることを実感しております。今後も高等学校や短期大学との連携をさらに強化し、学園全体の発展に努めてまいります。

最後に、関係者各位の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げますとともに、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

—未来を拓く
教育者として—

児童教育専攻長

吉井健人

新年あけましておめでとうございませう。

児童教育専攻では今年度4月、新たな時代の教育を担う使命と情熱を胸に、53名の1年生が入学しました。彼らが未来の子どもたちや社会に希望の光を

灯し、成長し続けることを期待しています。昨年度からカリキュラムを変更し、小学校および中高保健体育の各一種教員免許が取得しやすくなり、多くの学生が可能性を広げ、教育の未来を支える志を胸に、目標達成に向けて学業や諸活動に力強く取り組んでいます。

3年生では新たにキャリアアップランニング科目が始まり、教育関係のみならず民間企業の説明会にも積極的に参加しています。これにより、職業選択の幅を広げるとともに、教育分野の意義や魅力に改めて気付く貴重な機会となっています。また、今年度も3年生を対象とした教

員採用試験が実施され、本専攻から3名が見事合格を果たしました。

4年生においては、小学校教員採用試験に児童教育専攻から11名が合格し、公立保育園に2名が合格するなど、多くの学生が希望する進路を実現しつつあります。本学で培った知識と経験を活かし、未来を担う教育者・社会人として、それぞれの現場での活躍が期待されます。

教育は子どもたちの未来を育み、社会を支える基盤です。本専攻は、社会に貢献し活躍する人材育成に引き続き努めてまいりますので、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。



スポーツ教育専攻長

滝沢和彦

—スポーツ教育専攻
この1年—

新年あけましておめでとうございませう。

昨年は本専攻を3月に卒業した櫻井つぐみ選手、元木咲良選手がパリオリンピック女子レスリングで金メダルを獲得

し育英大学の名を世界に知らしめるとともに、10月末アルバニアにて開催された非オリンピック階級の世界選手権では4階級のうち本専攻の石井亜海選手(4年)と清岡もえ選手(3年)が金メダルを獲得、すでに新しい世代が育っていることが大いに注目されています。

また、4月にスタートした男子サッカー部、さらに陸上部や女子バレー部の強化指定クラブも各種大会やリーグ戦で活躍しています。

本専攻は令和6年度より入学定員を50名から100名へと倍増しましたが、おかげ様で

本年度は定員を超える入学生を迎えることができました。

一方の出口ですが、こちらも令和6年3月の卒業生は就職率100%を達成し、また今年度の教授でも群馬県で中学校体育2名が合格するなど、実績を上げつつあります。また、公務員サークルがますます充実してきており、教職以外の進路についても着実にその成果を上げるべく、教職員一丸となって学生指導に当たる所存であります。

関係各位のますますのご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和5年度後期・令和6年度前期の成績優秀者奨学金の授与

令和5年度後期の成績優秀者及び令和6年度前期の成績優秀者に奨学金を授与いたしました。奨学金は、半期授業料の半額相当です。成績優秀奨学生は、以下のとおりです。

令和5年度 後期 成績優秀奨学生	
教育学部教育学科 児童教育専攻	1年 米山 水葵 2年 西東 英奈 3年 菅原 想介 スポーツ教育専攻 1年 馬場 純未 2年 齋藤 望夢 3年 岩崎 竜馬
短期大学 保育学科	1年 山田 望央 2年 星野 友里 3年 宮下 夏妃
現代コミュニケーション学科	1年 高野 純鈴

令和6年度 前期 成績優秀奨学生	
教育学部教育学科 ※4年生は選考中 児童教育専攻	1年 三澤 陽依 2年 中澤 優花 3年 西山 なずな 西東 英奈
スポーツ教育専攻	1年 西村 昂琉 2年 三井田 奈那 3年 齋藤 望夢 萩原 蒼空 柳澤 優羽
短期大学 保育学科	1年 長岡 由利子 2年 佐藤 絵摩 後藤 実羽 星野 友里 山田 望央 宮下 夏妃
現代コミュニケーション学科	1年 飛田 暖奈 1年 高野 純鈴

クラブ活動の主な成績

本学の学生が本年度に活躍した主な成績は次のとおりです。

陸上競技部

- 第101回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会(10/19) 総合31位
- 関東学生陸上競技対校選手権大会(5/9) 12位
- ・櫻井 凪人(大学・スポーツ教育・2年) 400m 優勝
- ・篠塚 浩斗(大学・スポーツ教育・3年) 男子棒高跳 優勝
- ・高橋 陸人(大学・スポーツ教育・4年) 男子棒高跳 2位
- 日本学生陸上競技個人選手権大会(6/14) 16位
- ・篠塚 浩斗(大学・スポーツ教育・3年) 男子棒高跳 5位
- ・高橋 陸人(大学・スポーツ教育・4年) 男子棒高跳 7位

レスリング部

- 日本学生陸上競技対校選手権大会(9/20) 男子棒高跳 9位
- ・高橋 陸人(大学・スポーツ教育・4年)
- 関東学生新人陸上競技選手権大会(9/27) 遠藤 暢丈(大学・スポーツ教育・1年) 800m 2位
- U20アジアレスリング選手権タイ大会(7/20) 24位
- ・五味 虹登(大学・スポーツ教育・3年) 60kg級 G 優勝
- ・鈴木 飛来(大学・スポーツ教育・1年) 67kg級 G 3位
- ・澤谷 ゆな(大学・スポーツ教育・1年) 55kg級 W 2位
- JOG杯ジュニアオリンピックカップ(4/27) 28位
- ・五味 虹登(大学・スポーツ教育・3年) 60kg級 G 2位
- ・中村 真翔(大学・スポーツ教育・1年) 60kg級 G 3位
- ・有田 英慎(大学・スポーツ教育・1年) 63kg級 G 3位
- ・長谷川 虎次郎(大学・スポーツ教育・2年) 67kg級 G 優勝
- ・鈴木 飛来(大学・スポーツ教育・1年) 67kg級 G 2位
- ・深澤 昂空(大学・スポーツ教育・2年) 77kg級 G 3位
- ・高橋 侑臣(大学・スポーツ教育・2年) 77kg級 G 優勝
- ・勝部 混貴(大学・スポーツ教育・2年) 61kg級 F 3位
- ・菅野 煌大(大学・スポーツ教育・2年) 65kg級 F 3位
- JOC杯ジュニアオリンピックカップU23(4/13) 14位
- ・櫻井 はなの(大学・児童教育・4年) 53kg級 W 2位
- ・五味 音々(大学・スポーツ教育・4年) 55kg級 W 優勝
- ・桃本 怜那(大学・スポーツ教育・3年) 55kg級 W 3位
- ・平井 かえで(大学・児童教育・4年) 65kg級 W 3位
- ・石井 亜海(大学・スポーツ教育・4年) 68kg級 W 優勝
- ・藤倉 優花(大学・児童教育・3年) 72kg級 W 優勝
- 2024年明治杯全日本選抜選手権(5/23) 26位
- ・三谷 剛大(大学・スポーツ教育・4年) 63kg級 G 2位
- ・佐々木 優太(大学・スポーツ教育・3年) 97kg級 F 3位
- ・櫻井 はなの(大学・児童教育・4年) 50kg級 W 3位
- ・澤谷 ゆな(大学・スポーツ教育・1年) 55kg級 W 3位
- ・新井 一花(大学・スポーツ教育・2年) 57kg級 W 2位
- ・池畑 菜々(大学・スポーツ教育・2年) 65kg級 W 3位
- ・石井 亜海(大学・スポーツ教育・4年) 72kg級 W 優勝
- 2024年全日本社会人選手権(6/29) 30位
- ・櫻井 はなの(大学・児童教育・4年) 50kg級 W 優勝
- ・藤本 成海(大学・スポーツ教育・1年) 55kg級 W 2位
- ・新井 一花(大学・スポーツ教育・2年) 57kg級 W 2位
- ・藤倉 優花(大学・児童教育・3年) 72kg級 W 優勝
- 2024アジア選手権(4/13) 14位
- ・清岡 もえ(大学・スポーツ教育・3年) 55kg級 W 優勝
- U20アジア選手権(7/16) 24位
- ・五味 虹登(大学・スポーツ教育・3年) 60kg級 G 優勝
- ・鈴木 飛来(大学・スポーツ教育・1年) 67kg級 G 3位
- ・澤谷 ゆな(大学・スポーツ教育・2年) 55kg級 W 2位
- U20世界レスリング選手権スペイン大会(9/2) 8位
- ・長谷川 虎次郎(大学・スポーツ教育・2年) 67kg級 G 3位

・バドミントン・ナンバダグワ(大学・スポーツ教育・2年) 125kg級 G 3位

・池畑 菜々(大学・スポーツ教育・2年) 65kg級 W 優勝

■U23世界選手権出場(10/21) 27位

・石井 亜海(大学・スポーツ教育・4年) 女子68kg級 W 優勝

■2024年全日本大学グレコローマン選手権(10/23) 24位

・大学対抗 育英大学 団体優勝

・増田 壮兼(大学・スポーツ教育・4年) 55kg級 G 優勝

・五味 虹登(大学・スポーツ教育・3年) 60kg級 G 優勝

・三谷 剛大(大学・スポーツ教育・4年) 63kg級 G 優勝

・長谷川 虎次郎(大学・スポーツ教育・2年) 67kg級 G 優勝

・鹿糠 鉄斗(大学・スポーツ教育・4年) 77kg級 G 3位

・バドミントン・ナンバダグワ(大学・スポーツ教育・2年) 125kg級 G 優勝

■2024年天皇杯全日本選手権(12/19) 22位

・櫻井 はなの(大学・児童教育・4年) 50kg級 W 3位

・清岡 もえ(大学・スポーツ教育・3年) 53kg級 W 優勝

・新井 一花(大学・スポーツ教育・2年) 57kg級 W 2位

・元木 日陽里(大学・スポーツ教育・2年) 62kg級 W 3位

・池畑 菜々(大学・スポーツ教育・2年) 65kg級 W 3位

・石井 亜海(大学・スポーツ教育・4年) 68kg級 W 優勝

・五味 虹登(大学・スポーツ教育・3年) 60kg級 G 3位

・三谷 剛大(大学・スポーツ教育・4年) 63kg級 G 優勝

・中村 真翔(大学・スポーツ教育・1年) 63kg級 G 3位

・本名 一晟(大学・スポーツ教育・3年) 72kg級 G 優勝

・吉澤 英(大学・スポーツ教育・4年) 87kg級 G 3位

■女子バレーボール部(大学・短大)

■2024年度関東大学バレーボール3部秋季リーグ戦 (9/14) 10/19 優勝

■2024年度群馬県6人制バレーボールクラブカップ男子・女子選手権大会 兼第42回全日本6人制バレーボールクラブカップ男子・女子選手権大会 (5/26) 群馬県推薦で全国大会出場

■天皇・皇后杯 全日本選手権大会群馬県予選(7/13) 14位 準優勝

■男子サッカー部

■北関東大学サッカー選手権大会(4/20) 5/5 ベスト8

■関東大学サッカーリーグNorth 2部(5/11) 11/2 3位

その他の部

■第35回群馬県私立大学スポーツ大会(10/12) 13位

・ソフトボール部(男女) 優勝

・女子フットサル部 準優勝

・女子バドミントン部 準優勝

・女子硬式テニス部 準優勝

・女子バスケットボール部 準優勝

■出前公演(大学・短大)

和太鼓部、ハワイアン部、ダンス部、ハニーキッズ部は、地域の各種団体からの依頼により、出前公演を行っており大変喜ばれております。

公開講座

本学では、地域連携推進事業の一環として公開講座を実施しており、地域の皆様の生涯学習の一助となればと考えております。実施に当たっては高崎市と高崎市教育委員会の後援をいただいております。

第1回 7月21日(日)

10時～12時
演題／トーンチャイムを奏でてみよう！
講師／林智草(教育学部児童教育専攻 准教授)
対象者／小学校低学年(1・2年生)

第2回 7月27日(土)

10時～15時
演題／夏休みの宿題―ポスター・絵画を仕上げよう―
講師／渡辺 一洋(教育学部児童教育専攻 准教授)
対象者／小学校1～6年生

第3回 9月28日(土)

10時～12時
演題／チャレンジボール投げ遊び・ボール投げに楽しく遊びながら挑戦してみよう
講師／吉井 健人(教育学部児童教育専攻 准教授)
対象者／小学校低学年(1・2年生・保護者同伴)

第4回 10月26日(土)

11時～12時
演題／ポッチャをやってみよう！
講師／倉林 正(保育学科 教授)
対象者／4歳～年齢制限なし

第5回 10月26日(土)

14時～15時
演題／オリンピックと触れ合おう!!
講師／松本 隆太郎(教育学部スポーツ教育専攻 講師・ロンドンオリンピック銅メダリスト)、櫻井 つぐみ(教育学部スポーツ教育専攻 助手・パリオリンピック金メダリスト)、元木 咲良(教育学部スポーツ教育専攻 助手・パリオリンピック金メダリスト)、本学レスリング部学生
対象者／幼児、小学生

第6回 10月27日(日)

13時～15時
演題／プログラミング教室／ぷよぷよプログラミング
講師／大島 宗哲(現代コミュニケーション学 准教授)
対象者／小学校(中学年)

市内私立大学：短期大学連携事例発表会

本学では、高崎市が主催する『市内私立大学・短期大学連携事例発表会』(産学官連携・地域貢献活動による地域振興を目指して)に参加しています。

この発表会には、高崎市内の6校の私立大学・短期大学が参加し、地域が抱える身近な課題に、大学と企業等が共同で取り組む産学連携を促進させるもので、学生が地域貢献活動や新たなビジネスアイデアの展開を研究し、例年2月に発表しています。

令和6年2月は、新島学園短期大学が会場として行われ、本学から次の4プログラムが参加しました。

① 学生が自作した発達支援玩具の活用と改善に関する事例研究

発表者／保育学科2年…中村真唯、本多彩莉、安齊桜、金澤菜奈美、唐澤ひかり、篠原奈那、西田百花、椎塚葵梨
指導教員／保育学科・倉林正教授

② デイトレセンターとのeスポーツ大会、eスポーツ継続効果の調査

発表者／現代コミュニケーション学科1年…川口結、田中心乃、遠山紗希歩
指導教員／現代コミュニケーション学科…泉水清志教授

③ ゼミ活動で社会貢献！未来の『あそびんちや』を育てよう！

発表者／教育学部児童教育専攻4年…池田紗玖良、江原璃珠夢、小笠原優花、庭屋亜純、廣川実咲、堀口俊哉、吉原花香
指導教員／教育学部教育学部児童教育専攻・田中卓也教授

④ 中学校への体育的ボランティア活動の成果と課題

発表者／教育学部スポーツ教育専攻1年…諸星風弥、黒川気吹
指導教員／教育学部教育学部スポーツ教育専攻・日高裕介講師

図書館だより

大学図書館では、日々の学習・研究支援だけでなく、様々な企画やイベントも継続して行っております。

今年で4回目となる募集企画「手づくり絵本コンクール Beyond the Borders」(募集期間…2024年7月8日(月)～10月18日(金))には、学外からの応募が過去最多となり、高校生や社会人の方からも多数の力作が集まり、絵本の部34点、原作の部16点が寄せられました。

審査は、佐塚公代先生(児童文化)、木月慎子先生(豆本作家)のほか、絵本や美術を専門とする先生方が行い、絵本11作品、原作3作品の入賞作品を選出しました。

また、昨年に引き続き、定期開催のプリオバトルも月末のお昼休みに実施しています。学生だけでなく、教職員も積極的に参加し、読書を通じたコミュニケーションを楽しんでいます。10月10日(木)には、全国大学プリオバトル関東Bブロック予選を行い、チャンプ本を獲得した短大・現代コミュニケーション学科1年生の飛田暖奈さんは、11月2日(土)に群馬県立図書館で開催された、関東Bブロック決戦大会に出場し、素晴らしいプレゼンを披露しました。

大学図書館の催しが、学生の皆さんへの自己表現やチャレンジの場となり、学生生活の充



実に役立ていただけたら嬉しいですね。

また今年も、学生が書店で図書館に置きたい本を選ぶ「選書ツアー」や、先生方によるWeb選書を実施し、魅力ある蔵書の構築も進めております。このほかにも、しかけ絵本展、東日本大震災の新聞の展示、選書ツアー等、様々な企画を年間通して行っています。

大学図書館の活動の様子は、インスタグラムとX (@kuvel library) で発信しておりますので、ぜひご覧ください。



手づくり絵本コンクール入賞者

《絵本の部》

● 最優秀賞

『花の丘の 一羽のガラス』木野田博彦(埼玉県さいたま市)

● 審査員特別賞

『老桜のつばやき―根尾谷淡墨桜―』安藤邦緒(岐阜県本巣郡北方町)

● 優秀賞

『ジャックの眼鏡』(共作)大貫 乃愛 短大・保育学科2年、信澤 理恵(短大・保育学科2年、和田 歩結華(短大・保育学科2年)

『ひかりのいろ』青木 優花(短大・保育学科2年)

『Look Through Green Eyes』小柏 悠衣(短大・保育学科2年)

《原作の部》

● 優秀賞

『大きな木』川嶋 凜華(鳥取県立倉吉総合産業高校3年)



桔梗祭2024

大学祭実行委員長(大学)

齋藤 宝

大学祭実行委員長(短大)

保足 優里

今年度も育英大学・育英短期大学合同で、10月26日と27日に第54回桔梗祭を開催しました。今年のテーマは「But 愛 Fly 〜みんなの思い出史上“最高”に〜」で、実行委員を中心に学生全体が一丸となり、2日間を大いに盛り上げました。このテーマには、桔梗の花が象徴する永遠の絆と、ラベンダー色の蝶が舞う自由な心を表現し、鮮やかな紫色の桔梗が咲き誇る中で蝶が高く舞う情景を通じて、訪れる皆さまに希望と感動を届けたいという願いが込められています。

今年の桔梗祭では、学生が出場する「歌うまコンテスト」をはじめ、さまざまなステージ発表、模擬店、展示物など、多彩なプログラムを用意し、多くの来場者に楽しんでいただきました。模擬店では海鮮焼きやパフェなど個性的なメニューが並び、学食からの出店もあり、バラエティ豊かな食べ物を味わえました。

ステージ発表では、部活動やサークル、有志団体が日ごろの練習成果を披露し、1日目には和太鼓部による迫力満点の演奏や、ハワイアンサークルの優雅な踊りが観客を魅了しました。また、今年のバリオリンピックで大活躍された育英大学出身のオリンピックをお迎えし、トークショーを開催致しました。オリンピックとの質問コーナーやプレゼント企画も行われ、大きな盛り上がりを見せました。また、「歌うまコンテスト」では学生たちが素敵な歌声を披露することをはじめ、外部からは3組の芸人が出演して会場を大いに沸かせました。さらに、ゲーム大会やチェンソーを使った実演イベントなど、今年ならではのユニークな企画も実施され、幅広い世代の来場者に楽しんでいただけたと思います。

桔梗祭を開催するにあたり、関わってくださった皆さまのおかげで、無事に桔梗祭2024を終えることができました。今年度は過去最多の3600人もの来場者にお越しいただき、史上最高の桔梗祭にすることができました。来年度もたくさんの方に足を運んでいただけるような大学祭になることを心より願っております。



飛翔会だより

【定期総会】



令和6年度の定期総会は、5月18日(土)午後2時から本学の125教室で開催されました。

総会では、令和5年度事業報告、決算報告、会計監査報告、令和6年度新役員の選出、令和6年度事業計画案、予算案を審議いただき、原案どおり承認され、実習・就職活動、学生会活動、クラブ活動、学園祭、図書購入、コロナ対策、教育環境整備等に支援することとなりました。また、8月には卒業生で本学助手の櫻井、元木選手がパリオリンピックのレスリングに出場することからオリンピック支援金として支援しました。2人とも見事に金メダルを獲得し「育英」の名を世界に知らしめました。

その後、総会をもって任期満了により退任される会長、

各副会長(支部長)、監査計6名に学長より感謝状と記念品が贈呈されました。

【支部会】

第1回合同支部会が、9月21日(土)にラシーネ新前橋で開催されました。両支部会では、定期総会報告・学事日程、クラブ活動・出前公演の状況、各学科(専攻)の取組、進路などについて説明が行われ、参加した保護者からは様々な質問があり、大学との意見交換が活発に行われました。

第2回合同支部会が、本学役員会において書面で行うことになりました。

【青空市場】

10月26日(土)の桔梗祭1日目に、恒例となっている「青空市場」を出店しました。

「青空市場」では、新鮮野菜や果物、お菓子、飲料が格安で販売され、盛況のうちに終了しました。実行委員の



方々の協力により、桔梗祭を盛り上げることができました。また、「青空市場」の収益金102,379円は、学生の就職支援のため採用試験の問題集等を本学図書館に寄贈しました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

後援会だより

令和6年度定期総会

令和6年度定期総会が6月10日(月)午後6時からホテルラシーネ新前橋において開催されました。

総会では、令和5年度事業報告、決算報告、会計監査報告、令和6年度新役員の選任、令和6年度事業計画案、予算案を審議いただき、原案どおり承認され、指定強化クラブや地域活動クラブ、学園祭、教育環境整備等に支援することとなりました。

また、事業費については、大

桔梗会だより

令和6年度定期総会



令和6年度の桔梗会総会は、6月に本学会議室にて開催されました。総会では今年度の活動内容について審議され、新規事業として5年度大卒卒業生2名のオリンピック支援金として100万円の補助

助、桔梗祭(大学祭)への30万円の補助、そして卒業生への同窓会活動補助(同窓会開催補助)を行いました。

また、例年行っている教育環境整備支援補助20万円の学園への寄付、桔梗祭(大学祭)キャンパス・カミングデイへの補助、レスリング世界選手権出場・メダル獲得者への激励金・祝金の贈呈もいたしました。

10月には桔梗祭へ同窓会ブースを設け、多くの同窓生親子や一般来客との交流を図ることができました。今後も卒業生・卒業生への記念品贈呈など、在校生・卒

業生への支援を深めると共に育英大学・育英短期大学発展のため尽力していきたいと思ます。今後とも皆様方のご理解、ご協力をお願い申し上げます。



2024年パリオリンピック(レスリング)及び2024年レスリング世界選手権大会の出場者を応援

大学を支援する三団体(飛翔会、後援会、桔梗会)では、8月にパリで開催されたオリンピックに出場した選手と、10月にアルバニアで開催されたシニアの世界選手権大会に出場した選手に激励金と、すばらしい成績を修めた選手に御祝金を贈呈しました。

その他、U23レスリング世界選手権に出場した選手にも激励金を贈呈しました。

■パリオリンピック(8/8~11)

大学助手 櫻井 つぐみ
(57kg級 金メダル)
大学助手 元木 咲良
(62kg級 金メダル)

■レスリング世界選手権大会(10/25~11/1)

4年 清岡 もえ(58kg級 優勝)
4年 石井 亜海(72kg級 優勝)



育英高校だより

生徒数

普通科 1,358人

更なる飛躍の年に



前橋育英高等学校

校長 二渡 諭司

皆様には、日頃から本校の教育活動にあたたかいご理解とさまざまなご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

また、このたび男子サッカー部が第103回全国高等学校サッカー選手権大会において、7大会振り2度目の優勝を果たすことができました。この場をお借りして応援いただいた全ての皆様に心から御礼申し上げます。

昨年4月に着任して以降、本校の様々な教育活動を実際に見て、そして参加する中で生徒たちと交流し、本校に対する愛着が日々高まりつつあることを実感しています。特にこの冬は、男子サッカー部の他、2つの部活動が全国選手権大会に出場し、女子サッカー部が8年振りの初戦突破、男子バスケットボール部がベスト16とスポーツ強豪校と呼ばれるにふさわしい目を見張る活躍で、本校職員であることに感謝するとともに誇りを感じています。

さて、現在全国的に生徒の急減期を迎えています。県内でも中学校卒業見込

者数は、令和6年の約1万7千人から令和21年には6千人以上減少し、6割程度になると予想されています。本校のみならず、各高校にとつては正に生き残りをかけた戦いが始まっていると言っても過言ではありません。このような中、中学生が本校に魅力を感じられる特色を考えたとき、一つはスポーツ強豪校としてのブランドイメージを全国レベルで確立していることがあげられると思います。これは今後も維持、強化していかななくてはなりません。が、中学生の多様なニーズに応えるためには、更なる特色が必要です。幸い本校がもつ、職員の生徒に対するきめ細やかな指導の実践や、大規模校でありながらもアットホームで暖かい雰囲気を生徒と共につくりあげようとする資質は、教育に携わる者の必要条件であり、本校の新たな挑戦に向けた大きな武器になることは言うまでもありません。本校生の更なる充実した高校生活のために、ひいては中学生にとつて入学したい学校となるために、今その一歩を踏み出さなくてはなりません。その第一歩として、建学の精神を具現化するべく、海外研修などの国際交流を実現していきたいと思っています。皆様には本年も変わらぬご支援・協力をよろしくお願い申し上げます。

副校長挨拶

副校長
中西 信之

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。引き続き、本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は能登半島をはじめ全国で自然災害が頻発するなど荒れる辰年となりましたが、令和7年度は巳年となります。巳年は新しい挑戦や変化に對して前向きな姿勢を示す年であると言われています。私自身、自分の殻を破り更なる高みを目指し、前橋育英高校の発展に寄与したいと思っています。

本校はすでに部活動の強豪校として全国的な知名度を誇る学校ですが、入学したすべての生徒達が充実した高校生活を送れるよう、多様な教育活動を企画推進したいと考えます。

まずは国際理解教育として、短期留学体験の導入をすすめます。日本を脱出して海外から日本を捉えることで、視野が広がることを期待しています。

まさに脱皮して成長する、そのような一年を創っていききたいと思っていますので、本年もご支援をよろしくお願い申し上げます。

教頭挨拶

教頭
上原 敏広

平素より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。本年も変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

さて、この「ぐんま育英」に昨年私が寄稿いたしました拙い文章をみますと、コロナによつて閉塞しておりました学校の諸行事や部活動が徐々に催行されるようになりました云々、とありました。そのうえでこの一年間を振り返りますと、男子サッカーは言うに及ばず、女子サッカー、男子バスケットボール、レスリングなど14の運動部が、関東や全国で栄誉ある賞をいただきました。このあたりはスポーツ強豪校前橋育英の面目躍如たるものがあると思います。また、文化部も囲碁将棋部など四つの部活動が高く評価されました。

前橋育英生の多士済済ぶりを実感いたしました。

授業・学習面に目を向けますと、保育の実習に取り組む生徒たちがおり、一方で企業との連携活動に参加する生徒も居りました。拝見しておりましたところ、みな真摯にかつ活き活きと取り組んでいる姿が印象的でした。

本年も様々な目標を示して、生徒たちが真摯で活き活きと取り組める機会を数多く生み出していきたくと考えております。

『天下の英才を得て、之を教育す』ご理解、ご協力、そしてご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

事務長挨拶

事務長
平澤 精人

日頃は、皆様の多岐にわたるご支援・ご協力を賜りますこと、心から感謝を申し上げます。

男子サッカー部の選手権大会優勝では、最高の舞台で、最高の結果と感動の瞬間を皆様と共に体験させていただいたこと、また、多くの祝福を戴いておりますことに、改めて感謝申し上げます。

素晴らしい活躍の裏では、日々繰り返しされる選手場の弛まぬ努力と様々な立場で支える人々の協力・支援の賜物であると感じているところです。

年々、予想を遙かに超えて進む少子化の波に惑わされず、各々の限界を超えて戦う選手達の姿、勝利を最後につかみ取った姿を胸に、希望・目的に向かって、日々、努力を惜しまず邁進したいと決意をさせていただきました。

今後とも、何卒、宜しくお願いいたします。

男子サッカー部 第103回全国高校サッカー選手権大会

「一戦ごとに成長して成し遂げた日本一」

監督 山田 耕介

高校生の持つパワーの大きさを感じさせられた大会でした。毎試合しびれるような接戦で、選手たちも我々スタッフも相当疲れる試合の連続でした。ですが、その中で試合ごとに選手達が、成長していったと感じています。

正直なところ、このチームで「日本一」というのには、クエスチョンマークがありました。そんなに簡単になれるものではないかもしれません。試合を重ねていくうちに徐々に団結力が出てきて「もしかしたらあるかも」と感じつつ「いやそんなに簡単なものではない」と心の中で思い直していました。

なぜならこれまで何百人もの卒



業生の涙を見続けてきて痛感しているからです。優勝のチャンスがありながら、それでも勝てなかったことが、何回もありました…。

決勝戦のPKは、本当にしびれました。私自身は、神に祈るだけでした。選手たちは、本当にすごかった。あの局面であの大観衆のなかで決められるのだから「スゴイ」しか言えないです。選手みんな本当におめでとう。そしてこの日本一は、応援してくれた人たち、支えてくれた家族・友人そして一緒に戦ってくれた仲間のおかげだということとを忘れないでください。

最後に今大会にあたり、多大なるご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。すべての関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

女子サッカー部 第33回全日本高校女子サッカー選手権大会出場

監督 奈良 将弘

日頃より女子サッカー部にご支援、ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。また、2年ぶりの全日本高等学校女子サッカー選手権大会出場にあたり、皆様から多大なる応援をいただきましたことを、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

12月29日に行われた1回戦は、三重高等学校(三重県)と対戦し、試合開始から猛攻を仕掛けて4対0で勝利しました。翌日の2回戦は、インターハイ3位でシード校の帝京長岡高等学校(新潟県)と対戦しました。前半16分にセットプレーから失点しましたが、粘り強く守り抜きました。しかし、今年のチームの強みである攻撃は、連戦による疲労と相手の対策に阻まれて發揮できず、得点を奪えないまま0対1で惜敗し、ベスト32で大会を終えることとなりました。

比較的小柄な選手が多く、相手のパワーに苦戦することが多いシーズンでした。帝京長岡戦でも体格差で圧倒されつつも、体を張ってボールを奪い、技術で攻撃する選手たちの姿は頼もしく、小柄でも技術で勝負できることを証明し、多くの人々に勇気と感動を与えてくれました。また、本大会での初戦突破は8年ぶりの快挙となり、更なる飛躍への第一歩を踏み出すことができました。

最後になりましたが、大会出場にあたり多大なるご支援を賜りました関係各位の皆様、改めて深く感謝申し上げます。今後とも女子サッカー部への変わらぬご支援、ご声援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

男子バスケットボール部 ウインターカップ2024出場

監督 田中 亮多

日頃より本校男子バスケットボール部にご支援、ご協力賜りまして厚く御礼申し上げます。また、2年ぶりのウインターカップ出場にあたり、多大なる応援をいただきました心より感謝申し上げます。

昨年度の悔しい思いを糧に県予選を突破し、県代表としての自覚を胸に「チームの歴史に名を刻め」を大会スローガンとして120%の力で大会に臨みました。結果は、1回戦八戸工業大学第一 70対38、2回戦高知中央 76対64、3回戦福岡大学付属大濠 41対89でベスト16で敗退となりました。特に2回戦の高知中央戦は、留学生相手に立ち向かう選手たちを見て、指揮を執りながらも心震える会心のゲームだったと感じています。うまくいかないことの方が多かったシーズンですが、一つにまとまってチームメイトを信頼し、応援してくれる保護者や関係者の方々への感謝の気持ち、勝利という形で体現してくれた選手たちを誇りに思います。ベスト4という目標には届きませんでしたが、三大会連続の

ベスト16進出という結果は、間違いなく歴史に名を刻んでくれました。

最後になりますが、ウインターカップ出場にあたり、多大なるご支援、ご尽力いただきました保護者の皆様をはじめとする関係各位の皆様、改めて深く感謝申し上げます。これからも男子バスケットボール部への変わらぬ応援よろしく願いいたします。

吹奏楽部 第51回定期演奏会を終えて

吹奏楽部元部長 吉田 冨

今年度の定期演奏会は、昌賢学園まえばしホールにて約1000人という大勢のお客様をお迎えして開催することができました。特に第2部では、オリジナルの演出やプレゼント企画、ダンス部の皆さんの出演等で大いに盛り上がりました。また、本番1週間前に雨漏りの影響で作成した小道具を作り直すハプニングもありましたが、何とか無事に間に合わせる事ができました。

この定期演奏会をもつて私達第60期生(3年生)10名は引退となりました。これまで何度も挫折を繰り返してきましたが、顧問の先生方をはじめ音楽監督の山本先生、家族、後輩のおかげで最後まで私達らしい音楽をお届けできたと思います。

最後になりますが、定期演奏会へご来場いただき誠にありがとうございます。これからも前橋育英高校吹奏楽部へ温かいご支援をどうぞよろしくお願い致します。

令和6年度 体育祭開催

生徒会担当 齊田 翔平

10月16日(水)、体育祭が実施されました。二年前に実施された前回の体育祭は短縮での実施であったため、今回の体育祭では思う存分力を発揮することができたのではないのでしょうか。

今回の体育祭では、校庭でリレーと二人三脚、野球場で長縄と綱引き、体育館でドッジボールを、学年ごとに会場を分けて開催となりました。クラスで団結して競技に臨むことはもちろんのこと、応援する姿は例年にも増して力強く、大いに盛り上がりつつあったように思います。

また企画や当日の運営に関して、生徒会の生徒を中心として体育祭実行委員や担当の先生方が尽力してくれました。どんな行事もそう



ですが、裏方で支えてくれる人がいなければ成り立つものではありません。この場を借りて感謝を申し上げます。

今回の体育祭を経て、生徒の皆さんが何か一つでも得ることができ、それを今後の人生の糧にしていただければ幸いです。ありがとうございます。

第二学年修学旅行
(I期)報告

学年主任 古山 智之

去る11月5日(火)～8日(金)、第二学年普通科Ⅰ～Ⅲ類およびⅤ類で修学旅行Ⅰ期を実施し、九州地方を訪問しました。兎にも角にも晴天に恵まれ、3泊4日の行程を思う存分満喫し、かなり日焼けをして群馬に帰着した次第です。過日発行した学年通信PDF版(保護者様に配信)に掲載した写真の青空を見ていただければ一目瞭然です。保護者の皆様のご理解とご協力で実施できたことに感謝申し上げます。

さて、本旅行の目的の一つに、いわゆる「平和学習」があります。戦争を知らない世代が平



不思議なめぐりあわせのように感じました。

また、他の訪問地でも生徒たちは一人一人が修学旅行の目的を十分に理解しTPOをわかまえないが主體的に学んでいました。桜島・阿蘇の雄大な自然、震災復興途上の熊本城、海苔の養殖棚が印象的な有明の海、「火砕流」の爪痕深い島原・雲仙普賢岳、リアス海岸湾頭に位置する長崎市街のキリスト教文化などを存分に堪能したようです。教室を出て友人とともに学び、同時に友人間の絆を一層深めることができました。貴重な旅となりました。

2月4日(火)～7日(金)はⅣ類で修学旅行Ⅱ期を予定しております。本旅行で得られた経験を生かして実施に繋がりたいと考えています。改めて、本旅行に携わったすべての方に感謝申し上げます。



和の大切さを子供に伝えなければならぬ時代になって久しいですが、知覧特攻平和会館では特攻の歴史背景と特攻隊員の遺書等についての講話を聴き、戦史資料を見学しました。また長崎の平和公園・長崎原爆資料館では被爆の惨劇を伝える多くの資料を見学しました。過去に目を背けず学ぼうとする生徒たちの真剣な眼差しから、この目的はほぼ達成できたと考えています。今夏、パリ五輪で活躍した選手から「帰国したら特攻資料館へ行つて、卓球ができる日常が当たり前じゃないことを確認したい」といった発言があったり、映画オッペンハイマー(極秘中の極秘だった原爆製造ミッションの中枢人物)が公開され話題となったり、さらには被団協がノーベル平和賞を受賞したことも何か